

発行:株式会社北海道しんきん情報サービス 〒060-0032 札幌市中央区北2条東7丁目 HBAシステムビル TEL.011-233-1212(代) FAX.011-261-1811



TOPICS.1

第19回定時株主総会開催

去る6月13日(木)、信金中央金庫北海道支店において、当社の株主である道内全20金庫のご出席(委任状出席4金庫含)をいただき、第19回定時株主総会を開催いたしました。

当日は、第18期(平成30年度)事業報告に引き続いて、第1号議案の第18期(平成30年)貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書承認の件、第2号議案の剰余金の処分の件、第3号議案の定款変更の件、第4号議案の取締役・監査役報酬総額決定の件、についてご審議いただき、原案通り承認されました。

なお、会議に先立ち、増田社長から次のとおりご挨拶がございました。

挨拶内容

各金庫総代会等でご多用の中、第19回定時株主総会にご出席いただき誠に有難うございます。また、平素は弊社の業務運営に特段のご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の金融機関を取り巻く環境は引き続き大変厳しい状況であり、異次元緩和からマイナス金利へと低金利環境が常態化し、資金の金利更改が進むにつれて各金庫の経営環境も一段と厳しさを増しているのではないかと拝察いたします。経営の先頭に立つ理事長の皆様には日々ご苦労が多いことと存じますが、そうした中でも道内の信用金庫は依然として盤石な基盤を維持されていると聞いており、皆様のご努力に心から敬意を表します。

そうした中で当社の事業につきましては、前期の売上高が初めて10億円台の大台を達成することができ、漸く安定した経営基盤と経営体質になってきたと感じております。課題であります人材不足の解消につきましては今後とも継続的に取組んでいく必要がありますが、道内信用金庫の情報サービス会社として、少なからずその役割を果たせるまでに成長してきたように思います。これも偏に株主信用金庫の皆様のお陰と存じ、重ねて厚く御礼申し上げます。

申し上げるまでもなく、情報サービス会社の使命は大きく「システムコストの低廉化」と「バックオフィス事務の効率化・省力化」に寄与することであります。特にコストの低廉化につきましては一定程度の利用金庫数がなければ実現するのが難しいのが

現実です。したがって、一つでも多くの魅力あるサービスを提供し、多くの金庫様にご利用いただく中で、併せてコストの低廉化についても実現するよう尽力して参る所存でございます。

そのためには全国7つの情報サービス会社が連携を強化し、より発展した共同化を推し進めることが重要と考えており、過日開催されました全国の責任者会議の中においても、この点について熱心な議論が交わされたところでございます。また、本日の総会では、AI等、極めて速いスピードで進展するデジタルインベーションへの対応力や、様々なリスクに対する現場の対応力強化を図るため、経営体制の変更に向けた定款の一部変更を諮りました。

今後も引き続き魅力あるサービスを提供できるよう努力していく所存ですので、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



取締役
および
監査役

代表取締役会長 増田正二 (帯広信用金庫相談役)
代表取締役社長 武田大二郎 (企画・営業推進担当)
代表取締役副社長 藤谷直久 (道南うみ街信用金庫理事長)
専務取締役 竹谷信行 (地域支援、コンプライアンス担当)
常務取締役 池田達哉 (総務、運用管理、業務サービス、自動機監視担当)
取締役 山田隆秀 (室蘭信用金庫理事長)

取締役 熊尾憲昭 (空知信用金庫理事長)
取締役 石田芳人 (苫小牧信用金庫会長)
取締役 館崎雄二 (伊達信用金庫理事長)
取締役 伴道弘 (網走信用金庫理事長)
監査役 大沼孝司 (日高信用金庫理事長)
監査役 伊藤修治 (北海道信用金庫協会専務理事)

就任ご挨拶



代表取締役社長
武田 大二郎

平素は、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

去る6月13日に開催されました取締役会におきまして、代表取締役社長に選任されました。

この大任を、あまりのビッグネームである前社長から受け継ぐのは分不相応であることは言うまでもなく、身の引き締まる思いの一言ではとても言い表すことのできない、大きな重責を感じております。

ちょうど昨年の今頃、代表取締役常務を拝命し、同様の挨拶文を書いていたのが昨日のことのようであり、まさに光陰矢の如く時は過ぎ去り、自分はこの一年、本当にやるべきことを実践躬行できていたか?と自責の念に駆られております。

就任のご挨拶としては稚拙な内容になりますが、敢えてこの節目の時に自身の回顧と、関わった全ての方に謝意を込めて記したいと存じます。

私の仕事人生を決定付けたのは、やはり当時の北海道信金共同事務センター入所間もなく、研修課に配属され、そこで得た金庫役職員の皆様との「人脈」、これに尽きたと思っております。

新人研修から始まり、預金、融資の担当者・役席者向け各種研修等々の講師を担当させていただき、延べ人数では1,800名を超える皆様に受講いただき関わりを持ちました。

その際、受講生の皆様には年齢問わず身に余るご厚意をいただきましたが、特に当時可愛がっていただいた年長の諸先輩方は、ここ数年で皆様定年退職を迎られ、最後にお礼とご挨拶もできずに義理を欠いてしまった方々には、心からお詫びしたい気持ちでいっぱいです。

現在は、懇意にしていただいている私と同年代の方達が、数多く支店長等の要職に就かれており、各信用金庫のリーダーとしてご活躍され、世代が交代しているのを感じております。

そして業界全体に目を移しますと、時代はキャッシュレス決済の急速な普及など、世代交代と一緒に大きな変化を見せております。

私自身が、ネットショッピングや当業界でも推進するOrigami Payの利用など、これまでとは違う生活スタイルを何の抵抗もなく取り入れており、今後さらに次世代の人間が、金融機関をどう利用しどう関わっていくのか、憂慮せずにいられません。

しかし、時代のデジタル化を止めることはできずとも、人間同士の関わりは、私が経験した血の通った人情味に溢れる研修生との関わりのように、決してデジタル的であってはならず、信用金庫がこれからも、地域に根差した無くてはならない存在であり続けることを信じ、そして「最後は人」であることが、搖るぐことのない永遠不変の真理であると信じて、これからもこの業界にしっかりと寄り添い、尽力して参る所存でございます。

地域金融機関を取り巻く経営環境は一層厳しさを増し、もはや従来型の経営戦略・収益構造を維持できない状況にあると思われますが、改めて我々情報サービス会社にできることは何か、その使命と存在意義を再認識し、皆様のご期待に少しでもお応えするよう、この地に密着した業界組織として発展させていきたいと存じます。

先人が築き上げた功績に敬意を表し、微力ながら専心職務に精励いたす所存でございますので、何卒倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



常務取締役

池田 達哉

平素から格別なご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

去る6月13日開催の、2019年度第2回取締役会において、常務取締役を就任いたしました。

信用金庫の経営環境が大変厳しい中で、このような大役を仰せつかり身が引き締まる思いで一杯です。

弊社が設立された原点でもあります、それぞれの信用金庫が日々行われております業務の更なる合理化・省力化と、より一層のコスト低減を目指して、邁進していく所存でございます。

弊社は、信用金庫が望まれるシステムなどをタイムリーにご提供し、安定的にご利用いただくことが使命だと思っております。それを実現できるのも弊社を支えてくださる沢山の方々のご支援ご協力がなくてはならないものと思っておりますので、これからもどうかよろしくお願ひいたします。

今後は、皆様方からより親しまれる会社を目指し、日々研鑽してまいりますので、何卒これまで以上のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

TOPICS.3

INTERVIEW

第3回

信用金庫インタビュー

北門信用金庫



北門信金 事務部の皆様

相続業務支援システムについて

- しんきん大阪システムサービス株式会社(OSS)との提携による「相続業務支援システム」は、現在3金庫にご利用いただいており、北門信金様は道内初の導入金庫でした。ご導入の経緯をお聞かせください。

相続業務については、役席者の事務負担が大きく、それを軽減するため、相続事務の受付・説明・手続等の処理を窓口職員ができるシステムを検討していたところ、HSISがOSSと提携してサービスを提供することを知りました。

シンプルで分かりやすいシステムでありながら必要な機能が網羅されており、価格も他地区との共同利用により低価格で利用出来る点が良いと考え導入を決めました。

- ご利用開始から約1年半が経過いたしましたが、システムの良い点をお聞かせください。

良い点は、何よりシステムの柔軟性 있습니다。相続事務のナビゲーション機能は最も重要な機能になりますが、このシステムではエクセルでフローを定義することが出来ます。そのため、当金庫独自の仕様にするだけではなく、導入後の軽微な事務改定や法改正の際も追加費用をかけることなく対応が出来ています。帳票についても当金庫の所定帳票をそのままシステムに登録しています。したがって、システムに合わせて事務を変えるのではなく、今の事務を基にシステムを作り込むことが出来る点が良いです。

また、相続人確定支援機能や、戸籍謄本の連続性確認機能も搭載されているので、相続事務に不慣れな職員への教材としての利用価値もあると思います。

- 今後、当システムに関する展望や期待していることはありますか。

当金庫では、ローカウンターに端末を置いていない店舗もあることから、受付後にシステムに入力する運用を行っています。システムへ入力している職員も限られており、現時点では当初の想定よりシステムを最大限に活用できていないという課題があります。しかし、ローカウンターに端末のある店舗では、システムを利用して営業店窓口職員で事務を完結させることができ、利便性が証明されていることは事実ですので、今後は運用体制と設備面での強化を図っていきたいと考えています。

また、各金庫からの要望に基づいて機能追加を適宜行っているそうなので、より充実したシステムになっていくのではないかと思います。また、利用金庫数の増加によっては料金の値下げについても検討いただけることですので、北海道地区でも利用の輪が広がっていくことを期待しております。

カルテ画面(事務のナビゲーション機能)

設問内容に応じてチェックをつけていくことで相続事務の一連の流れが完結する

書類管理画面

カルテ画面のチェックの内容に基づいて必要な書類を自動判別し、プレ印字した状態でシステムから所定帳票を印刷することができる

編 集 後 記

本誌は、2016年7月に創刊し、お陰様で本号をもつて4周年目を迎えました。つまりは、ちょうど3年が経過したということあります。

私事ではありますが、筆者もまた本年3月で入社丸3年が経過しました。

ところで、日本人にとって3という数字は何か特別な数字のようで、「石の上にも三年」、「早起きは三文の得」、「仮の顔も三度まで」等々、3を使うことわざがたくさんあります。

中でも、「石の上にも三年」ということわざには個人的に思う所があります。「冷たい石の上でも3年座り続けていれば暖まってくる」という意から、「辛抱していれば

ばいはず報われる。」というような教えだそうですが、さて私自身のこれまでの経験を振り返り、どうだったでしょう。

桃栗三年柿八年、商い三年、頸ぶり三年…昔の人は言葉を変えて同じような教訓を多く残すものですから、この「年月」の重要性をしかと受け止めているつもりではありますが、「歳月人を待たず」とも言いますので、やはり私はただ座っているだけではなく、石を温めるために能動的にありたいと思います。本誌もまた、皆様に親しまれるよう、編集者一同「いし(意志)」を持って創意工夫して参りますので、今後とも変わらぬご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

発行：株式会社北海道しんきん情報サービス

〒060-0032 札幌市中央区北2条東7丁目 HBAシステムビル TEL.011-233-1212(代) FAX.011-261-1811